

## 令和2年度 尾張地域産業労働会議における主な発言要旨

日時：2020年8月28日（金）

午後2時から午後4時まで

場所：愛知県三の丸庁舎 8階大会議室

### （新型コロナウイルス感染症の影響と骨子案への反映について）

- ・今年の10月以降、更なる倒産、失業者の増加で深刻な状況になると懸念される。
- ・春先の衣類等の小売店の販売不振により繊維業は深刻な影響が出ている。
- ・雇用調整助成金等の各種助成金についてはコンスタントに相談があり、高止まりの状況である。
- ・ハローワークには離職票を持ってくる失業者が非常に多い。失業者が5月、6月、7月と増えている傾向に対して、求人数は減少している傾向である。
- ・今回新たな愛知県産業労働計画を策定するために、まずは新型コロナの感染拡大の影響をきちんと分析して施策に反映していただきたい。
- ・サプライチェーンが機能しなくなった。今一度国内企業や人材の可能性を見直す必要があると思う。
- ・事業者が抱える資金繰りの問題、受発注の厳しい状況、雇用をどう守るか等を具体的に計画に盛り込むためにもっと現場の話を聞いて作る方がよい。
- ・次期産業労働計画を進めるには医療の充実強化も必要である。新型コロナを何とかしないと上手くいかない。

### （新しい生活様式への対応について）

- ・テレワークや時差出勤できる業種と、対面を必要とする業種が混在する中でどう経済活動を行うかが重要である。新しい働き方や職場環境に対応していくことも必要である。
- ・テレワークの導入は大企業だけで進んでいるのが現状で、中小企業の働き方改革の促進にも目を向けて、AI等新技術の導入やテレワークの設備投資、導入の支援が必要となっている。費用補助のハードルをもう少し下げるなどして強化する必要がある。
- ・電子決裁、クラウドを活用した受発注の取引等を中小・小規模企業にまで広げていくことが必要である。
- ・デジタル化を進めるため、残すべき伝統と文化を見極めながら、ある事業所ではモノづくりとデジタル技術を融合させる取組を行っている。

### （新型コロナウイルス感染症からの再起動について）

- ・新型コロナに対応したBCPモデルの策定にあたっては、どのような対処が企業にとって一番意味のあるものかを意識した行動を、日ごろから行っていくことが重要である。
- ・反転攻勢に向けた需要喚起は重要だと認識している。一番打撃を受けているのは観光産業であり、現状の事業者にとっては反転攻勢が希望であるので、今は2～3年後の反転攻勢の材料となる取組を行っていく。
- ・緊急対策に挙げられている持続化給付金は、次に続く施策とは思えない。施策の事例として挙げるなら、小規模事業者持続化補助金ではないか。また、オンライン版合同企業説明会の拡大については、様々な意見がある。ある企業では、オンライン版合同企業説明会による採用の結果の検証を行い、その結果によっては、今後広がるかどうかは不透明という認識である。

### （次世代産業の振興、イノベーションの創出、地域産業の活性化について）

- ・現在、航空宇宙産業は大変厳しい状況に追い込まれている。従来どおりの施策を展開していくのか、

新型コロナの影響等を鑑みて方向転換するのか具体的に書いてほしい。

- ・現状でスタートアップを支援するといっても、この状況で創業するのはかなりの勇気が要る。
- ・次世代産業の振興において、愛知県内の企業で関連事業の分散化をする仕組みを県の主導によって作っていただきたい。結果的にオール愛知の活性化につながるのではないかと思う。
- ・最先端の技術開発を行っていない、個別の業種がまとまっていない地域ではどのように支援していくべきか考えることが必要である。
- ・「地域産業の活性化」の記述は、ありきたりな表現にとどまっている。具体的な支援策を提示していただきたい。
- ・イノベーションに乗ることができない中小・小規模企業もあるので、配慮が必要である。
- ・現在、ほとんど商店街がまとまって何か新しい試みを行うという状況ではないので、骨子は実態とかけ離れているように感じる。

#### (地域の魅力発信・ブランド力の向上、グローバルな産業拠点機能の向上について)

- ・ジブリパークについて地元には今のところあまり情報が入ってきていない。もっと地域と連携してほしい。
- ・「グローバル」は、今後人が物理的に動かなくても例えばオンラインで世界と繋がるという形に変わっていくことが計画に上手く反映されればと思う。

#### (誰もが生き生きと活躍できる環境づくりについて)

- ・今回のコロナ禍の関係で「安心して働ける」というキーワードは必要である。また、全員活躍に向けて「ひとり親」への支援も盛り込む必要があるのではないか。
- ・社会的な問題となっている非正規雇用の問題について何も触れられていない。非正規の方を含めた処遇改善が必要である。同一労働同一賃金が当たり前の社会の実現が求められる。
- ・環境づくりといっても、環境とは、賃金や処遇のこともあれば、福祉の充実の必要もあり、その旨の記述が必要である。福祉も充実していれば、社員は「やりがいをもって働くことができる環境」だといえる。
- ・女性が労働環境で活躍する社会を目指すには、同時に男性が家事や育児をしながら働くことができる社会を目指す必要がある。誰もが生き生きと活躍できる環境になるように社会意識の醸成といった観点でも施策を検討すべきである。
- ・パワハラ対策は行政の力がないとその環境づくりは難しい。具体的な改善策を提示していただきたい。
- ・コロナ禍で65歳以上の方が雇い止めにあっている状況である。行政もより深く現状について認識し、高齢者の活躍支援の具体的な施策を検討してほしい。
- ・障害者雇用に関して、環境づくりという面で愛知県においても設備投資や助成金等の制度を作って雇用の充実を図っていくべきである。

#### (愛知の産業を担う人財力の強化について)

- ・中小企業の人材確保につながる若年層と企業のマッチング機会の拡充を図ることが必要である。
- ・労働生産性の向上については、技術革新が重要だが、新技術ばかりでなく、以前からある技能の継承とその育成支援にも取り組む必要がある。
- ・新型コロナを契機に情報通信分野等新たな産業分野の成長が見込まれるため、その分野の人材育成が大変重要になってくる。
- ・IoT等の技術の普及活用により人員が不要になる一方で、新しい職業、職種が出てくる。衰退する職業と新しく出てくる職業の転換期にある。

- ・新型コロナによって休業を余儀なくされて労働力に余剰が出てくる業種の人材が、労働力不足の業種で働くことができる仕組みを作ることが雇用環境の改善につながると思う。

#### (中小・小規模企業の持続的発展について)

- ・今後、倒産が増える中で大手だけが生き残り、しわ寄せが中小・小規模企業にいく構造にならないように、愛知県内の企業全てを守れるように、下から積み上げて計画を作してほしい。
- ・中小・小規模企業は人材、情報、資金に限りがある。まずは倒産させないことを最重要項目に位置付けて、施策の展開を図っていただきたい。
- ・県には、資金繰りの支援に最も力を入れていただきたい。経済的支援の追加措置を強く望む。
- ・中小・小規模企業が大企業と県民を支えている。ビジョンは明るいことばかり書かれているが、中小・小規模企業にどういう体力をつけていくのか見えるビジョンを策定してほしい。
- ・骨子案全体で「中小・小規模企業」と一括りの表現となっている。しかし、中小企業の規模には相当幅があるため、基盤施策の「中小・小規模企業の持続的発展」では「“小規模企業に配慮しつつ” 頑張る中小・小規模企業の持続的な発展を図る」とした方がよい。

#### (骨子案の記述について)

- ・資料2の1ページの「2. 検討の視点」の記述で、世界銀行、IMFの予測で「2020年後半に収束するとの前提の下～」とあるが、収束する見込みは立っていないように思える。
- ・「年度」と「年」が混在している部分がある。引用した統計調査によって「年度」と「年」が入り混じるのであれば、引用した調査を記載する等した方が分かりやすい。
- ・2030～2040年ごろの社会経済の展望はもっとワクワク感を与えられる表現ができないか。